

- 1 題材名 曲の山を感じながら歌おう（2時間）
教材名 表現（歌唱）「ふじ山」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現 (1) 歌唱 ア、イ、ウ (7)

〔共通事項〕 (1) ア 旋律、強弱、フレーズ

・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素 : 旋律

(1) 題材観

本題材では、歌詞の内容や旋律の特徴を手掛かりに曲の山を感じ取り、旋律の特徴を生かした曲想にふさわしい表現を考え、思いや意図をもって歌うことをねらいとしている。

音楽を特徴付けている要素の一つである「旋律」に着目し、旋律の特徴を感じ取ったり、その特徴によって生み出される曲想を捉えたりしながら学習を進めていく。楽譜上の音符を手掛かりにして、旋律の特徴や音の上がり下がりが生み出す曲の山を感じ取ったり、歌詞の表す様子と、感じ取った旋律との特徴との関わりを考えたりしていく過程で、歌い方を工夫させていきたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

この曲は、旋律の音の上がり下がりや歌詞の内容を手掛かりにすると、この曲の盛り上がり（曲の山）を捉えやすく、盛り上がりに向けて、どのように歌い方を工夫していけばよいか、どのように強弱を工夫していけばよいかを考えるのに、子どもたちにふさわしいと考えた。音符のたまを線で結び、旋律の上がり下がりやを視覚的にとらえることで、この曲の盛り上がる箇所を視覚的に捉えることができる。また、階名唱を行うことで、旋律の上がり下がりや、どの音が最高音にあたるのかも理解しやすい。「ふじ山」には二点ハが3回出てくるため、曲の盛り上がりは何度かあるが、歌詞の内容を考えると「ふじは日本一の山」の部分が曲の山であることも、子どもたちにとって発見しやすいだろうと考える。

また、「ふじ山」の歌詞は、親しみやすい言葉で書かれており、富士山の雄大な様子が具体的に表されている。歌詞を音読したり、旋律の上がり下がりに合わせて体を動かす活動を入れたりすることで、歌詞の内容と旋律の動きに関連があることに気が付きやすいのではないかと考える。

さらに、この曲は1オクターブ内の音でできていて、階名唱に取り組みやすい楽曲である。階名唱に取り組むことで、旋律の音の上がり下がりや最高音にも気付かせやすい。今回は、既習の「うたって音の高さを感じよう」学習を生かし、ハンドサインも活用しながら、本題材を取り上げていきたい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】

②既習を生かして学びを深める授業づくり

小学校低学年（1・2年生）の段階では、「ようすをおもいうかべよう」の学習で、歌詞の意味を考え、それを歌い方に生かす学習を行っている。3年生になると、この学習をさらに発展させ、歌詞の解釈を深めるとともに、旋律の特徴にも注目する。子どもたちは、旋律の特徴を手掛かりにすることで曲の山を感じ取ることができ、曲の山の表現の仕方を考えていく中で思いや意図をもって歌唱するようになると思う。この段階での学習が基盤となり、将来的には、曲全体の曲想や合唱によるハーモニーを感じながら歌えるよう、9年間の教育課程で徐々に力をつけさせていくことが重要である。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

今回の指導では、「個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）」の観点から、子どもたちが歌詞の内容や旋律の動きをもとに、どのように歌いたいかを自ら考えさせることを目指している。このために、教科書の4段に分かれた楽譜を見やすく2段に再編し、特に3段目と4段目のつながりを明確にした。さらに、学習プリントに階名を加えて音の上がり下がりをつまみやすくし、音程を正確に感じ取るための練習も、常時活動を通して行っている。また、子どもたちの興味を引き出すために、様々な美しい富士山の写真を見せ、感情を高めることで、どのように歌いたいかという意欲を強化していきたい。このアプローチにより、曲の魅力を深く感じながら歌えるようになるだろうと考える。

「協働的な学び」に関しては、全体指導のほか、子どもたちを小グループに分けての活動を取り入れる。グループ活動では、自分の考えを自由に伝え、互いの意見を尊重しながら、歌い方について考える場としたい。一人一人のアイディアを大切に、様々な考え方を認め、どのように歌えば曲の力が伝わるのかを探求させたい。グループ内で出た考えを全体で共有する場面では、他の班の発表から新たな気付きも得ることができるだろうと考える。各個人のアイディアが尊重され、子どもたちが安心して意見を交わすことができるような環境となるよう、指導者として配慮したい。そのため、グループ編成も、担任と相談し、友達関係も考慮したうえで、意見が出しやすく一緒に練習がしやすいような環境へと整えた。

子ども一人一人の音楽に対する思いを大切に、音楽表現の楽しさとともに、歌唱表現力を高めることができるよう、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りたい。

【視点3】評価の在り方

題材観で示した力を育成するために、まず富士山への興味を喚起し、歌いたいという意欲を高めさせるように支援する。また、旋律の特徴や曲の山を活かした歌い方によって、曲の魅力を深く感じとれるように図りたい。「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、小グループでの話し合いの場を設ける。これにより、自分の考えを広め、深める機会をもち、他者との相互作用を通じて、新たな発見を促すことができる。曲を学習する前後での比較を行い、「ふじ山」の曲に対する理解や、感じた魅力を振り返り、自身の学びや変容を自覚させたい。曲の特徴をつまみ、どのように歌うかについて、子どもたちが自分なりの思いや意図をもつことができたとしても、実際に自然で無理のない歌い方を表現するのは難しい。そのため、声の出し方に関する指導は、教師が支援し授業を組み立てていく。

3 題材の目標

- 曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。（知識）
- 思いや意図にあった表現をするために必要な、範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付けて歌っている。（技能）
- 曲の特徴をつまんだ表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（思考力、判断力、表現力等）
- 旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。 ② 技 思いや意図にあった表現をするために必要な、範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付けて歌っている。	① 旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと関係について考え、曲の特徴をつまんだ表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	① 旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（2時間扱い）（本時2/2）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿 【視点】	評価規準 (評価方法)		
				知技	思	態
◎曲の山を感じながら歌おう						
第一次 旋律の特徴を生かしながら、思いや意図をもって歌う。	第1時	○常時活動を行う。 ・発声練習を行う。 ・ハンドサインを使って音階を階名唱する。 ○本時の学習内容を知る。 ○「ふじ山」の歌詞を理解し、情景を想像する。 ・歌詞を音読し、意味を共有する。 ○歌唱練習をする。 ・音程をとる。 ・息つきや休符の位置を確認する。 ○曲の山について知る。 ・歌詞から、一番盛り上がるところがどの部分なのかを考える。 ・「曲の山」という言葉の意味を知る。 ○階名唱を行う。 ○旋律の動きと曲想の関連性を見つける。 ・旋律のたまの部分で線を結ぶ。 ・音の最高音を見つける。 ・旋律の上がり下がり、曲の山の関係性を見つける。 ○「曲の山」を意識して歌唱する。 ・歌詞唱をする。 ☆〔旋律、フレーズ〕	○口の形や声の出し方に意識をもたせながら、発声練習を行う。 ○ハンドサインを使いながら、音の高さを体感させる。 ○様々な富士山のスライドを用意し富士山に対する興味を持たせる。 ○「ふじ山」という曲の旋律の特徴について学習することを伝える。 ・歌詞の内容、言葉の意味を理解する。 ○正しい音程で歌えるようにする。 ○息つきや休符の位置を意識させ、音楽の流れ（曲のフレーズ）を感じながら歌わせる。 ○歌詞をよく読み、曲の中で一番盛り上がる部分はどこかを考えさせる。 【視点1②】 ○一番盛り上がる部分を「曲の山」ということを伝える。 ○音の高さや音楽の流れ（曲のフレーズ）を意識させて歌うようにさせる。 ・旋律を線で結ぶことで、2段目の山のような形になっていることに気付く。 ○山頂にあたる部分が、曲の一番盛り上がる部分（曲の山）になっていることに気付かせる。 ・「曲の山」という言葉の意味を理解して歌唱する。	①知	②技	

	第2時 (本時)	○常時活動を行う。 ・発声練習を行う。 ・ハンドサインを使い階名唱する。 ○前時の復習をする。 ・範唱CDを聞く。 ・歌詞の内容を確認する。 ・旋律の特徴を確認する。 ・歌唱練習をする。 ○旋律の特徴を生かして、歌い方を工夫する。 ・グループで歌い方の工夫を考え、発表する。 ○曲の特徴を生かして、「ふじ山」を歌唱する。 ☆〔旋律、強弱、フレーズ〕 ○振り返りを行う。	○口の形や声の出し方に意識をもたせる。 ○ハンドサインを使いながら、音の高さを体感させる。 ○歌詞の内容を再確認する。 ○旋律の上がり下がり「曲の山」の関係性を再確認する。 ○正しい音程で歌わせる。 ○どのように歌うと、「曲の山」を表現できるか（曲の盛り上がり表現できるか）、歌い方について考えさせる。 【視点2②】 ・声の出し方や強弱を工夫して歌う ○旋律の特徴を生かして歌い方を工夫することができたかどうか、振り返りをさせる。 【視点3】		 ① (記述・発言・聴取)	 ① (観察・聴取・記述)
--	---------------------	--	--	---	--	--

6 本時の指導（2/2）

（1） 本時の目標

旋律の特徴を生かした表現を工夫し、どのように「ふじ山」を歌うかについて思いをもつ。

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動を行う。 ・発声練習「いえあおう」を行う。 ・ハンドサインを使って音階を階名唱する。 2 前時の復習をする。 ・範唱CDを聞く。 ・歌詞の内容を確認する。 ・旋律の特徴について確認をする。 ・歌唱練習をする。 3 本時の学習内容を知る。	○口の形や声の出し方に意識をもたせながら、発声練習を行う。 ○ハンドサインを使いながら、音の高さを体感させる。 ○母音や子音など、言葉の響きを意識して声を出させるようにする。 ○階名唱を行うにあたり、上がるにしたがって気持ちが高まり、音が下がるにしたがって落ち着くようにフレーズを意識しながら歌うようにさせる。 ○範唱CDを聞いたり、歌詞の内容を確認したりすることで、1番は「日本一高い山」2番は「日本一美しい山」であることを伝えていることを思い出させる。 ○旋律の上がり下がりが山の形を表していることや曲が一番もりあがる部分「ふじは日本一の山」が「曲の山」ということを再確認させる。 ○正しい音程で歌えるように、歌詞唱、階名唱と両方行う。
曲の山の歌い方を工夫しよう。	
・曲の山が伝わるような歌い方について、グループで歌い方を考え、歌い方を試す。 《予想される児童の工夫》 ・「かみなりさまを一」から、富士山の頂上に向かってだんだん大きくしたい（旋律が上がっていくから） ・「いちのやまー」だんだん小さく歌いたい。（旋律が下がっていくから） ・「ふーじは」だけを急に強くするのではなく、「かみなりさま」（2段目の始め）から段々大きくしたい。 ・曲の題名である「ふじ」という言葉があるから、大きく歌いたい。 ☆〔旋律・強弱・フレーズ〕	○どのように歌ったら「曲の山」が表現できるか（曲が盛り上がり表現できるか）を考え、実際に声に出して歌い試させる。 ○旋律・歌詞・強弱を手掛かりに、4～5人のグループで話し合いをさせる。 ○歌い方の工夫が見つからないグループには、歌詞を再度読んで既習学習を思い出させ、旋律の上がり下がりや、富士山の映像から風景をイメージさせ、歌い方の工夫を考えさせる。【視点2②】 ◇旋律、強弱、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 （思考・判断・表現） （記述・発言・聴取）

	◇旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 〈観察・記述・聴取〉
4 各グループの考えた工夫を発表する。	○それぞれのグループで考えた歌い方を発表させ考えを共有させる。
5 2段目の歌い方を全員で試す。	○TVに映してある富士山の稜線を追いながら、視覚的にも確かめながら歌唱させる。
	○旋律が下がるからといって、弱々しくなるのではなく、手の動きをつけ山の稜線を感じさせるようにして、声を遠くまでに響かせるように歌わせる。
	○手で山の稜線を描きながら歌うことで、旋律の上がり下がりや強弱の関係を試して歌わせる。
6 一番、二番を通して歌唱する。	○曲の山を感じて歌うように気をつけて歌唱させる。
	○旋律の上がり下がりを感じながら強弱に気をつけて歌うことで、曲の良さが表現できることを実感させる。
7 本時の振り返りを行う。	○本時の振り返りをさせる。
・ワークシートを書く。	・曲の山を表現するために、歌い方を工夫することができたか。
・ふじ山を学習した感想を発表する。	・曲のよさを見つけることができたかどうか。
	・ふじ山を学習した感想をまとめさせる。
	・「曲の山」を次回の学習にも生かせるように声かけする。
	【視点3】